

# くしまっ子

### 思い伝わる作品を 市美術展に2年連続入選



今回の入選作「dream」

## 若き画伯誕生!?

昨年11月にあった第23回市美術展の絵画部門で、福島高校2年の渡辺采音さんが2年連続で入選を果たしました。絵画部門には27点の応募があり、ベテランがひしめく中、高校生では唯一の入選となりました。

幼い頃から絵を描くことが好きで、高校で絵の技術や知識を学びたいと美術部に入部。そこで初めて油彩の道具を手にしました。何層にも塗られた深い厚みによる重厚感や、写真と見間違っほどリアル

な絵が描ける油絵の魅力にのめり込み、油絵を中心に制作活動に取り組みようになりました。

「自分の絵を見てくれる人に社会問題など何かを訴えるような作品を描きたい」と、渡辺さんの絵は、人物画や風景画のような現実世界を描くものではなく、自分の世界観で表現する非現実世界を描くのが特徴です。



わたなべ 采音さん  
22. 渡辺 采音さん

福島高校2年。高校入学後、美術部に入部し油絵を始める。初出展となった一昨年の市美術展絵画の部で新人賞、昨年11月の市美術展では、努力賞を受賞。

「やった!」



ふくしま 綾乃さん

### 地域おこし協力隊

# 活動日記

vol.22 お正月からアクシデント



今年も暖冬とはいえ12月下旬、実家がある京都では積雪が観測され、友達のInstagramでは雪化粧の鴨川の写真が投稿されていました。やっぱり年末の帰省は怖い。というか、あの底冷えする地元になんて帰るようなもの。なので年末

年始は串間で過ごすことにしています。この年末もカメラを持って仕事。串間神社境内の様子と御崎神社からご来光を狙いました。年に一度のお正月。ちょっといつもと違うワクワクしながら作業していたら、アクシデント発生!! 幸先悪い! カメラの相棒三脚(自前)が新年早々ぶっ壊れました。しかも日付を超えた途端に…。それでも仕事は仕事。言い訳するわけにもいきませんのでとりあえずお正月はなんとか踏ん張りました。

で、お正月の撮影が終わり、遅めのお休みに入った頃。やっと一息入れて自由な時間を楽しめるなど、温泉の旅に出ようか、それとも部屋のレイアウトを変えようかと考えていたら、何やら異変が。ひどい喉風邪を引

てしまったんだと思い病院に行ったところ、まさかのインフルエンザに感染!! 「私のお休みはもっと楽しいはずだったのに」と熱いなされば一つとしながら、ベッドの上でスポーツ飲料を片手に休日が過ぎていきました。

お正月から踏んだり蹴ったりだったので、串間神社で引いたおみくじには「花が咲いて実がなるまでゆっくり地道に頑張んなさい」ということが書いてありました。串間の生活も丸2年。協力隊の任期も残り1年となりました。きっとあつという間に終わってしまうような気がしますが、今まで通り淡々と地道に頑張りますので、みなさんどうぞよろしくをお願いします。



## 野鳥通して自然保護訴え

### 記録として残したい

「生物オタク」を自称するほど子どもの頃から植物や動物など、自然のものが好きだった井手さん。高校生の時に生物の先生に勧められて自然保護団体である「日本野鳥の会」に入会しました。現在も串間市に生息する野鳥の記録を続け、これらの記録は日本野鳥の会の基礎資料となり、環境保護に役立てられています。

畜産業を営む傍ら、仕事でも車には望遠レンズの付いたカメラを常備し、鳥を見つけては撮影しています。これまで市内で確認できた野鳥は216種。今では「どの季節に、どんな鳥が、どこに行けば見られるのか分かるようになってきた」と話します。

調査を続けることで知った自然の大切さ。「鳥が生きられない環境は、人にとっても生きづらいはず。この活動を通して自然を守りたいと思える人を増やせるようにできれば」と井手さん。野鳥を追いかける日々はまだ続きそうです。

井手さんは福島港に飛来していた絶滅危惧種のコアジサシの保護活動にも2009年頃から取り組んできました。串間の自然を見つめ直す活動を展開するくしまn自然学校のメンバーと一緒に繁殖地の草刈りやごみ拾い、人や車の進入を防ぐための保護柵の設置などを行ってきました。

井手 保宏さん  
(北方地区・羽ヶ瀬)

畜産農家。日本野鳥の会会員。くしまn自然学校のメンバーとしても活動。野鳥の調査を続け、写真展なども開催している。



絶滅危惧種クロツラヘラサギ



井手さんが市内で撮影したハヤブサ



串間で活躍する人を  
紹介します

## きらめき図鑑 kirameki